



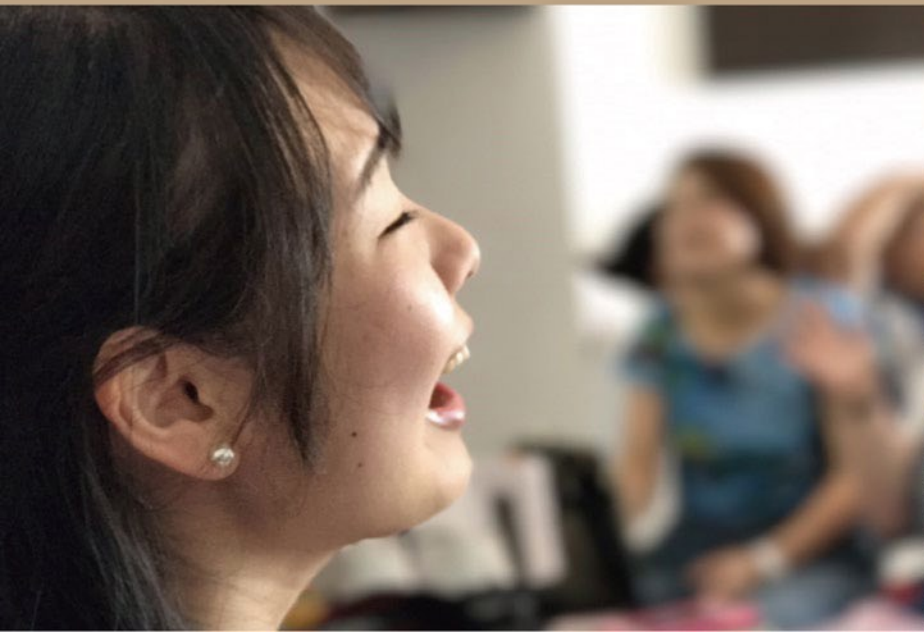
メインメッセージ

「賛美の心」

「正しい者たち。主にあって、喜び歌え。賛美は心の直ぐな人たちにふさわしい。」(詩篇33篇1節)

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネーションズ・ジャパン聖書学院
2017年10月・11月号 NO.169





「賛美の心」

学院長 鍛冶川利文

「正しい者たち。主にあって、喜び歌え。賛美は心の直ぐな人たちにふさわしい。」(詩篇33篇1節)

私達にとって賛美は、神様に対する感謝の表われであり、信仰生活における日々の力の源です。ネヘミヤ記には「主を喜ぶことはあなたがたの力であるからだ。」(ネヘミヤ記8章10節 欄外別訳)とあります。そしてダビデはその賛美こそ「正しい者たち(私たち)にふさわしい」と語ります。しかし、週の初めの聖日で賛美はしても、その他の日には賛美できない自分がいるかもしれません。何故でしょうか？そしてどうしたら賛美できるのでしょうか？この個所から、「賛美の心」を見ていきたいと思えます。

1. 賛美の心とは？「真っ直ぐな心」

「賛美の心」とは、「真っ直ぐな心」です。正しい心のことです。「置かれた場所で咲きなさい」(渡辺和子)というベストセラーの本があります。この本は、長く多くの人たちが読んでいそうです。それは何を意味するのでしょうか？つまり今の社会でそれだけ多

くの人たちが自分の居場所に満足していないということの表れです。正しい向上心を持つことは良い事です。それは自分の居場所を認めた上で、その上に次のステップを築こうとするからです。それは人を正しい方向へと向かわせます。しかし、不満な心は自分を見失い、人を間違った方向へと向かわせます。その思いは常に「これは自分には不当な扱いだ!」「もっと私は良い思いをしてもよいはずだ!」という間違った自分に対する見方があるからです。ダビデが罪を犯してしまった背景にもこのような思いが働いていました。

ダビデは年が改まり(春)、全軍を戦地に送り出し、自分だけが王宮に居ました。(2サムエル記11章1節)聖書には「しかし、ダビデは〜とどまっていた。」と否定的に言っています。これはダビデは頂点に立ち、「もう俺様が行かなくても」という慢心の表れです。そして、ダビデは夕暮れまで寝ていました。(2サムエル記11章2節)それはダビデの霊的な状態です。そして王宮の屋上を

歩いていました。それは支配者としての満足です。そんな慢心の思いの心の隙に誘惑は入り込むのです。その時に、ダビデは裸の女性の姿を目にします。これはあのエデンの園でのアダムとイブが罪に陥った時と同じです。「そこで女を見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。」(創世記3章6節)ここには3つの欲が働いて罪へと向かわせた事が書かれています。「すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。」(1ヨハネ2章16節)この動機となった事は、いずれも「不満」でした。アダムとイブは「神が何かを隠している」という不満がありました。そしてダビデも「自分の境遇に満足できない」という思いがありました。ダビデは王としての慢心と、もしかしたら家庭に対し、心不満があったかもしれません。(妻はミカル)そこにサタンは付け込んだのです。しかし、ダビデはこの罪の結果、徹底的に神様の取り扱いを受けることとなります。ダビデとバテシェバの間に生まれた子は神に打たれ、病いで死んでしまいます。(2サムエル12章19節)この時にダビデは1週間、神に必死に懇願をしますが、残念ながらその願いは届きませんでした。でもダビデは潔く、神の裁きを受け入れます。そして、傷ついた妻、バテシェバを慰め、やがて跡継ぎのソロモンが生まれます。「直ぐな心」とは、自分の置かれた立場を正しく受け入れることです。慢心や不満からではなく、神の前に正しく自分の居場所を理解し、感謝することです。そうするなら次の場所が見えてくるのです。今、私たちが置かれている場所を感謝しましょう！それが賛美の心です。

2. 賛美の心とは？「素直に受け取る心」

「賛美の心」とは、「素直に受け取る心」です。幼子のような心です。でも最近の子供は贅沢になり安価なものでは喜ばないかもしれません。私たちにも、そのような心があるでしょう。「今あるもの」とは何でしょうか？それは神様から与えられている能力やお金や賜物や時間、家族などです。今の自分にあるものです。人はどうしても足りない所に目が行きがちです。「無い物ねだり」をしてしまうものです。それは今あるものに感謝が足りないからです。人は感謝が足りないと嫉妬深くなります。そして嫉妬心を長く持つと猜疑心となり、それが憎しみへと変化していきます。サウル王がそうでした。サウル王はダビデがゴリアテとの戦いに勝利したのを喜び自分の側近として召し抱えました。やがてダビデは王の為に勇敢に戦い、多くの勝利を勝ち取り凱旋します。サウル王はそのダビデを誇らしく思ったことでしょうか。しかしある時、1つの歌を聞くのです。それは勝利に喜ぶ民の祝いの歌でした。「サウル王は千を打ち、ダビデは万を打った!」(1サムエル18章7節)サウル王はこの歌を聞いた瞬間に心に嫉妬の思いを持ちます。そして、やがてそれが憎しみへと変わっていくのです。そして遂にサウル王は敵を倒すよりもダビデを殺すことに全精力を用いていくようになります。結局、その王の行動を誰も止めることは出来ませんでした。そしてその結果、サウル王の最後は惨めな死で終わります。もしサウル王が歌を聞いた時に寛容な心で聞き流すことができたなら、サウル王の運命は変わっていたでしょう。ダビデの勝利を、神様からの賜物として感謝できたら、その王権は長く続いていたことだったでしょう。そしてダビデも王様の為に最後まで忠実に従っていったと思えます。でもサウル王は、

こう言ったのです。「**ダビデにないのは王位だけだ。**」(1サムエル18章8節)

イエス様がタラントの例えを教えられました。(マタイ25章14節～30節)この例えは「天の御国の例え」ですが、私たちの人生の教訓でもあります。旅に出た主人は、しもべにそれぞれの能力に応じて違うタラントを与えられました。5タラント、2タラント、そして、1タラントです。これは不公平ではありません。それぞれの能力に応じた配分です。もし1タラントもらう人が5タラントもらうなら、それはその人にとって能力を超えたものとなり決して成功しません。問題は量ではなく用い方なのです。なぜ1タラントの人は、自分に与えられたものを土に埋めたのでしょうか。この人は神の責任にしていますが、(25節)実はそうではなく、この人が自分に与えられたタラントを取るに足らないものと考えたからです。あまりにも過少評価した為です。この人はこう思ったのです。「なぜ?自分だけが1タラントなのか?」「恥ずかしい。」「神は不公平だ!」この人は神からの賜物があまりにも小さく見えて、それがちっぽけで嫌でした。自分も見たくないし、人にも見せたくありませんでした。まして銀行などに入れる気もありませんでした。だから土に埋めたのです。それは、今あるものを感謝できない心です。しかし、イエス様が5タラントを預けた僕に「わずかなもの」と言いましたが、それは決してわずかな額ではありませんでした。(21節)大変な金額なのです。そして、1タラントもすごい金額なのです。このことに気が付くときに、私たちは恵みの大きさに感動します。

「神は実にその一人子をお与えになったほどに世を(私たちを)愛された。」(ヨハネ3章16節)もうこれ以上のものは

上げられないほどの最高のものを神は私たちに与えておられます。その恵みの大きさに感謝しましょう!今、あるものに感謝しましょう!

3. 賛美の心とは?「罪赦された心」

最後に、「賛美の心」とは、「罪赦された心」です。賛美は「罪赦された者」にこそふさわしいのです。ダビデは詩篇51篇で、「**神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。**」(詩篇51篇17節)と告白しました。悔いた砕かれた心こそは、神への最高のいけにえです。その賛美は、天使たちに勝るものです。なぜなら天使は赦された経験がないからです。私たちはあらためて人間に与えられている務めがどれほど素晴らしいかを覚えたいと思います。ダビデはそれを「**新しい歌を主に向かって歌え。**」(詩篇33篇3節)と表現しています。私たちこそが「新しい歌」を歌う事が出来、新しい賛美を歌う事が出来るのです。それは「**正しい者たち。**」(1節)という、神の正しさを頂いたものとしての賛美です。

「**主にあって、喜び歌え。賛美は心の直ぐな人たちにふさわしい。**」(詩篇33篇1節)



新入生の紹介

■去る、9月4日(月)、ゲストスピーカーの「マクナルド師」をお迎えして、2017年度2学期からの入学式が行われました。この学期から、本科生2名と、アルプス生(牧師・リーダーコース)2名が新たな学びを始めました。新たな学校生活の為に祈りをお願いします。



■ハレルヤ! 主の御名を賛美します。卒業してから半年を得て学院に戻ってきました。アルプスでの学びが出来たことを感謝します。私がアルプスを志望した理由は献身について深く考えていきたいからです。学院での生活を通してキリストの弟子としてリーダーシップを学び、兄弟姉妹同士の交わりを大切にしていきたいです。」

●小川 拓実 (アルプス)



■『ハレルヤ! イエス様を賛美します。今回このようにして、アルプスコースが、2名で開かれたことを主に感謝します。将来、アフリカのガーナで牧師になる召しのため、牧会について深く学び、主と個人的にますます親密になり、主の働き人として、砕かれ、整えられていきたいと願っています。「ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことを確かなものとしなさい。これらのことを行って行けば、つまづくことなど決してありません。』(ペテロ1章10節)』

●藤原 聖也 (アルプス)



■ハレルヤ! この学院に入学できた事を感謝します。神様はどんな時でも見放さず、いつも私を愛してくださいました。神様の為に人生を捧げていく決心をしました。聖書やイエス様の事を深く知り、これから始まる学院生活や訓練の中で臨在に触れて成長していきたいと思います。

●敦賀 美香 (本科生)



■ハレルヤ! 主の御名を賛美します。夫の入学に伴い今年4月から北海道での生活が始まりました。当初は家事で仕えると頑なになっていましたが朝の賛美礼拝、アウトリーチに参加して、私も主を求め続ける礼拝者として成長したく、入学しました。また、同じ学びをする事で霊においても夫婦の一致が、神にあって益々強まる事を期待します。

●山谷 奈美 (本科生)



改正とお詫び

前号(CFNJ NEWS NO.168号)で、9ページに掲載した、入学式の文章の中で、「田島忍」姉妹と、「高谷美里」姉妹の文章が、入れ替わっていました。訂正して、お詫び申し上げます。



交通渋滞のジャカルタ市内



インドネシアアウトリーチレポート！

2017年7月20日～8月1日迄の13日間 「ジャカルタ」「ジャヤプラ」



「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい」(マルコ16章15節)

今年の夏のアウトリーチはインドネシアに行きました。期間は、7月20日から8月1日迄の13日間。インドネシアの首都「ジャカルタ」と、東のパプア州の「ジャヤプラ」を訪問しました。参加人数は、学生17名と教師3名の合計20名です。

到着し、先ず驚いたのは、首都ジャカルタの凄い発展ぶりです。高度成長の真っ只中で、至る所に建設中の工事が行われ、市内は車と人で溢れていました。インドネシアはここ7年間で、何とGDP(国民総生産)が倍になるほど急激な発展を遂げているそうです。しかし更に驚いたことは、インドネシアは世界最大のイスラム教の国と言われているにも拘わらず、教会も多く、福音が力強く語られていることです。私たちが宿泊した場所の近くにも、若者であふれた大きな教会があることにとても励まされました。又、ジャカルタから飛行機で東に約6時間、同じインドネシアでもジャカルタとは全く違う、ニューギニアのジャングルの中にある、ジャヤプラ市にも訪問させていただきました。私たちはこの地で開催される伝道集会に参加する目的でしたが、現地の空港で早速、民族衣装を着たダンスチームや現地の教会の大勢の皆さんの熱い歓迎を受け、とても感激しました。とにかく行って、見て、体験し、そして感じる。参加した神学生が、福音を伝えることの喜びと労苦を実感する為のアウトリーチでした。以下、参加した学生のレポートをご紹介します。

「世界の働き人として」

藤原 聖也

今回のアウトリーチは、7月20日から8月1日まで総勢20名でインドネシアのジャカルタとジャヤプラへ行きました。ジャカルタでは、「ヒカリジャパニーズスクール」というクリスチ안의校長先生が教えておられる小学校へ行き、素晴らしい学びと交わりのときを持つことができました。また、ニコ先生の息子様の教会も見学し、日本とインドネシアの教会規模の違いに驚きました。ニコ先生の息子様の教会はモールの5階にあるのですが、その階には、モールの駐車場も設置されており、教会へ行くために使用出来るそうです！日本も教会を建てる際に、創造的なアイデアを持ち、イノベーションを起こしていく必要があると思いました。また、ヒカリジャ

<次ページに続く>



ジャカルタ到着



ジャカルタ市内の教会での奉仕



ヒカリジャパニーズスクールでの集合写真



大学訪問



日本人教会での奉仕



ジャヤプラの小学校訪問



ジャヤプラでの癒しの集会での奉仕



ジャヤプラ教会での聖日礼拝

ニーズスクールと連携がある、UPH というクリスチ안의教師を育成する大学も訪れ、様々な良い刺激を受けました。

ジャヤプラでは、空港で民族の方から熱烈な歓迎を受け、どこかへバスで移動するたびに、パトカーが先導して下さり、本当に現地の方々のおもてなしの心を感じました。そして、二日間行われたいやしの集会にも参加し、最後には学生の皆がペアになって、いやしが必要な人々のところに行き、お祈りすることができました！そして喘息の癒しが、ある学生を通して起こり、本当に感謝でした！学院長は、今までのアウトリーチの中で一番、皆が一致していたアウトリーチでした！と言われており、本当に嬉しく思いました。今回のアウトリーチの担当では、実習長の他に音響の担当でもあり、様々な予期せぬトラブルが発生しましたが、無事対応することが出来、奉仕を全うできました。また健康も守られて、本当にみなさまのお祈りの支えを感じました。感謝します。ジャカルタ、ジャヤプラの教会、そしていやしの集会での賛美では圧倒的な主の平安に触れて、涙が溢れて、ただ王なるイエス様を礼拝しました。今回は特にジャヤプラで、アンドレアスさんとイーストさんが、私たちと常に同行して通訳などで助けて下さり、大変お世話になりました。

このアウトリーチを通して学んだことはインドネシア人と日本人の違いでした。インドネシア人は、笑顔で相手の方を見ると、相手もとびっきりの笑顔で返してくれます。知らない人に対して心が開いています。ジャヤプラはキリスト教が50%です。しかし日本人は警戒心や恥ずかしさがあるためか、笑顔で相手の方を見ても怪しまれるか無視されてしまいます。これはインドネシアと日本の文化の違い、また日本は、キリスト教が1%であり、その背後には偶像礼拝による束縛と社会の中で抱えるストレスが大きく影響しているためだと感じました。その為、イエス様の愛が日本に注がれる必要があると実感しました。今回は日本から出て行って、霊的にも文化的にも違う地へ行き、そこで、同じ主に仕えることができ、感謝します。全ての栄光をイエス様に帰します。

「どこでも礼拝者となる」

プーチ聖美

7月20日～8月1日までインドネシアアウトリーチに行ってきた。行くにあたり、金銭面、そして自我

<次ページに続く>

のプライドとの戦いによって初めは行かない決断をしていましたが、その時に神様にはっきり語られたのは「あなたは全てが祝福されるという保証がないと行かないのか」という語りかけでした。この言葉により自分は全てが整い、道が整っているという保証がなければ御声に聞き従わないという信仰なんだと気付かされ、悔い改め、祈り直し、平安が与えられ、行くと決断しました。一步踏み出したときに、金銭面も祝福されていくという不思議を体験することができました。この事により、アウトリーチというのは今この瞬間から始まっていると気付かされました。行ったこともない、知りもしない国を愛するという行動はこの時の決断からはじまっていました。祈りの中で今回このアウトリーチで私の中だけでなく、また日本でもなく、この世界で働く神様を見に行きたいと強く思われ、そのような目標を持ちました。

出発した千歳空港でふと足元を見ると金色の指輪を見つけ何気なく指にはめてそのまま飛行機に乗りました。見事に爆睡した私は飛行機が着いたときに目が覚め、兄弟が隣りにいる女性が指輪を無くしたと教えてくれました。はっと指輪をつけていたことを思い出し、まさかと思い追いかけて、その指輪の持ち主であった女性に届ける事ができました。彼女は興奮のあまり泣きながら私を抱きしめてきました。この出来事の中でもしかしてこの指輪は福音を表していて、女性はまだ救われていない人々を表しているのかもしれないと思いました。福音とは間違いなくこの女性のように興奮のあまり泣きだすような良い知らせです。このような奇跡と喜びも体験する事ができました。

インドネシアアウトリーチを通して二つの事を大きく学ぶ事ができました。一つ目は、「神様の創られた国と人は美しい」ということです。国も違い、言語も違う私たちが一つの国で礼拝を捧げられる恵み、これはキリストの体の特権であること、それぞれの宗派や背景は違えど同じ一つの神様を礼拝できるのは言語を超えているものがあるということを経験することができました。また私たち日本人チームの一体感と絆は本物であったということを証明できたと思います。もう一つ学んだことは、「どこでも礼拝者である」ということです。自分の育ってきた環境、またやり方は違っても自分はどうか礼拝者であるべきなのか、ダビデが荒野を聖所としたように、今いる環境で礼拝を捧げることを通してそこを聖所としていくこと。これは私たちクリスチャンにしかできなく、一番大切なことだと学ばされました。その地を聖所とすることにより、その地は変えられていくと信じます。

インドネシアではイスラム教もキリスト教も共存しているということを経験しました。宗教以前に一人の人としてその人を尊敬する心を見たとき私たち日本人もクリスチャンもこのような心が持てたらいいなと思われました。外に出て改めて自分は日本人であり、日本人であることへの誇りを持ちました。1パーセントしかクリスチャンが居ないと言われている国ですが、ここで捧げられている礼拝は確かに本物で地を変えるほどのものであり、日本の未来に期待と喜びを確信しました。先生方、出会った人々、祈ってくださいましたすべての方々ありがとうございました！チームのみんな！最高！そして、全行程を守ってくださった主に栄光をお返しします！ハレルヤ！



ジャブラの小学校訪問



ジャブラでの癒しの集会



ジャブラでの癒しの集会での奉仕



集会後の祈りの時



ジャブラバラクレートス教会での記念写真

CFNJ 特別講義 ゲストスピーカー



10月
安食 弘幸 師

●16日～18日/1時間目
●19日/1～3時間目
合計6時間



10月
宇佐神 実 師

●16日～17日/2時間目
合計2時間



10月
ダニエル・マカーティ 師

●16日～17日/3時間目
●18日/2・3時間目
合計4時間



10月
有賀 喜一 師

●23日～27日/1・2時間目
合計10時間



11月
ロドルフォ・ガルザ 師

●13日～16日/1・2時間目
合計8時間

●ゲスト講義は無料です。(自由献金制、テキスト代有料) 詳しくは事務局迄。

2017年2学期 授業カリキュラムスケジュール

(2017年9月4日(月)～12月1日(金)迄)

1・2年コース

(敬称略)

	月	火	水	木	金
1 8:45～9:40	創造科学 オラ・カト・ハヌス	世界教会史Ⅱ 鍛冶川利文	約束の地を 所有せよⅡ 三浦雅範	旧約聖書概論Ⅱ 金聖圭	雅歌の学び 松原望
2 10:00～10:55					
3 11:05～12:00					
	使徒の働きⅡ 田中博	エペソ書 ジェラルド・グドル	信仰の土台Ⅱ ジェラルド・グドル	新約の礼拝 鍛冶川利文	イエス・キリストの生涯Ⅱ J・ジャンセン

アルプスコース

1 8:45～9:40	祈り 田中博	牧会 カウンセラー 小栗昭夫	弟子訓練 金聖圭	ヨブ記 石田吉男	執り成し 岡田好弘
2 10:00～10:55					
3 11:05～12:00					
	伝道のマスタープラン 鍛冶川利文	聖書の祭り 金聖圭	聖書釈義 松原望		

選択科目

午後 13:00～15:00	ドラムクラス 仲宗根昇平	タンバリンクラス 鍛冶川 紀子	ボイストレーニング 新井田 路子	実習 (必修)	ドラマ演劇 クラス 鍛冶川 紀子
	英語クラス ドベリクリス		ピアノクラス 新井田 路子		



愛するとりなし手の皆様へ—— 世界の為の祈り

ジェラルド・グドール



祈りのレポート！ World Prayer Share Letter

ユダヤ人の町「ピロビジャン」(ロシア)

■今年の、8月12日から21日迄、CFNJ 聖書学院で長年講師を務めている「石田吉男牧師」を団長に数名のチームで極東ロシアの宣教旅行に行ってきました。今回初めて、ユダヤ人の町「ピロビジャン」に行くことができました。ハバロフスクから車で2時間のところにあるピロビジャンという町は1930年代にユダヤ人自治区として建てられました。私たちがそこに着くと、この3~4年間、ピロビジャンでメシアニック・ジューのコングレーションを開拓、牧会していた夫婦に会いました。石田先生が日本のクリスチャンからの献金を渡し、ピロビジャンのために祈り続けることを約束しました。この牧師夫妻はこのことを予想していなかったようで、圧倒され、涙を流し、何度も私たちに感謝しました。夕方、私たちはこのコングレーションの平日の集まりに行き、近年救われたばかりの熱心なユダヤ人の信者たちと会いました。石田牧師はイスラエルのために祈ることの重要性について強く

語りました。会衆はこれまでに日本人クリスチャンに会ったことは一度もなく、イスラエルの救いのために熱く語る石田先生のメッセージに大きな感銘を受けていました。

人口約10万人のうち、公にはユダヤ人は2千人しかいないと言われていたのですが、実際には数万人いると思われるこの大きなニーズのあるピロビジャンの人々の救いのためにお祈りください。



祈りのレポート！ World Prayer Share Letter

中国のクリスチャン人口2億人に到達！

■今から4年前、習近平国家主席の就任前に、中国統計局は国家の状況を詳細に調査しました。公文書によると、クリスチャンの総数が一億六千万人という驚異的な数字にまで膨らんだことが習氏に報告されています。この数字を確認し検証する作業がある大学教授に委ねられ、様々な研究の後で彼はそれが真実であると結論づけました。彼はまた、現在そのまま成長が続くなら、20年間で中国人の3人に1人がイエス・キリストの信仰者になると予測しました。それは4億人以上がクリスチャンになることを意味します！中国について深い知識を持つある人によれば、現在中国のクリスチャン人口は、「だいたい」二億人に達したと言います。この世界でいまだかつてなかったことです。私たちはまさにキリスト教史における最大のリバイバルを見えています。

このようなリバイバルにもかかわらず合法的には十分な数の聖書が中国国内で印刷されていないのが現状で、聖書の深刻な必要があります。また、日本にいる外国人の29%が中国人であるという統計が発表されています。約69万人の中国人が日本に住んでいるということです。また昨年約637万人の中国人観光客が日本を訪れています。これは来日した外国人観光客の27%を占め、毎月約53万人の中国人が観光客として日本に入国したことを意味しています。このように日本国内でも中国人に聖書や伝道文書を配るチャンスがあります。中国での聖書の必要が満たされるため、また日本での中国語聖書配布のためにお祈りください。配布方法などについて詳しくは新生宣教団にお問い合わせ下さい。(情報源：新生宣教団ニュースレター)

世界の注目を浴びる「NISEKO」(北海道ニセコ町)

■バーが7つ、ナイトクラブが1つ、しかし教会はゼロ。これは、スキー・リゾートで有名な北海道、「ニセコ町」の現状です。しかし、この現状が変わりつつあります。ニセコを愛し、毎年のように海外からニセコに来ているスキーヤーの中にはクリスチャンもいます。長年積み上げられて来た祈りが一気に答えられるかのように、最近色々な動きが起き始めています。去る8月6日、ニセコで主のために働きが始められることに関心のある人々が国内外から札幌のICF教会に12人集まりました。その時に集まった人々からのコメントを紹介します。

●ニセコで、ロッジとカフェを運営する「ギャビー・リー」さん。

「神さまとニセコを愛する外国人と地元の人からなるニセコ・フェローシップができました。私たちは土地と建物を取得し、ロッジとカフェを運営することによって働きを維持しています。このカフェは、冬の間も継続して、バイブル・スタディや礼拝を行うために使用します。最初のバイブル・スタディは、8月23日に始まりました。聖書の学びを通して、神の子どもとしてのアイデンティティの強力な土台を築くことを願っています。今後、いやしの祈りの時や、ニセコ周辺を歩く祈りの歩行などを始めることも願っています。」



●YWAM 東京の宣教師、「グレッグ・リリー」師

「私たちは今後2年以内に、訓練、礼拝、和解に焦点を当てた基地を立ち上げることを望んでいます。」グレッグ師の奥様レイチェルさんは、8歳の時に神さまから夢の中で鮮明に北海道を見せられて以来、北海道への召しに従って来ました。

●カリフォルニア州レディング市にあるベテル教会のBSSM(聖書学校)とBMITS(宣教師訓練学校)を卒業した、「ジェレミー・シー」宣教師。

「神さまは日本で強く動いています。私は4月と8月に札幌と東京の両方に来ましたが、今回ニセコ、札幌、東京に来てみて、前回とずいぶん違いました！教会はもっと一致していますし、神さまの臨在が明らかです。私は神さまがしておられることを見てとても興奮しており、神さまの動きに加わりたくです。」ジェレミー氏は、今年の冬に、ニセコ・フェローシップでワーシップを担当する予定です。

どうぞ、ニセコでの主の働きが豊かな実を結ぶことができるようにお祈りください。また、北海道でまだ教会のない市町村が87もあります。これらのすべての市町村に、イエス・キリストを礼拝し、証する力強い教会ができるようにぜひ祈ってください。

「イエスは弟子たちに言われた。『収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。』(マタイ9章37節・38節)

あなたも学院で学んでみませんか！

2018年、1月・4月からの 新入生募集中！

(各学期からも入学できます)



インドネシアアウトリーチ

アルプスコース
1・2年コース
短期コース
通信・聴講制度

ホームページをご覧ください!
cfnj.com

- ★演劇・ドラマコース
- ★タンバリンクラス
- ★ドラムクラス
- ★ピアノクラス
- ★英語クラスほか

無料体験入学可能! 平日、3日間、授業料、宿泊費、食費込み。 ※詳しい資料ご希望の方は、学院事務局までお知らせ下さい。

CD販売 刊行物

●お申し込みは/学院事務局まで



「神の指がふれた時」 定価/1枚(CD) (送料別) **700円**
「神のみことばのいやしの力」 定価/1枚(CD) (送料別) **1,000円**

※サンプルは、下記のページで聴くことができます。

<http://www.cfnj.com/media.html>

無料
プレゼント!

- 「聖霊のバプテスマを受けるには」(ゴードン・リンゼイ著)
- 「いやしの信仰」(ゴードン・リンゼイ著)
- 「山をも動かす祈り」(ゴードン・リンゼイ著)
- 「主の恵み尽きることなく」(鍛冶川 紀子著)

学院のニーズと祈りの課題

ハレルヤ〜！いつも CFNJ 聖書学院を覚えてお祈りくださり、尊い献金をもって支えてくださる皆様、本当にありがとうございます。皆様のご支援に支えられて、学院に与えられた使命を果たすべく、スタッフ一同心を合わせて祈りつつ日々の業務に励んでおります。

その中で今、来年度に向けて様々な必要を覚えておりますので、下記の祈りの課題を共にお祈りくださり、導かれた方はご支援のほど、よろしく願いいたします。

<祈りの課題>

1. 学生数が増え、現在の21名が、30名以上になるように。
2. 学生寮の「配管高圧洗浄費」、約25万円が満たされるように。
3. スタッフ、学生の、健康及び霊的一致と成長のため。



宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネーションズ日本校

CFNJ聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343

●HP: www.cfnj.com 郵便振替: 02780-4-4688
●e-mail: office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文

